

# 2014年湘南藤沢学会 研究助成基金 報告書

長谷部葉子研究会コンゴアカデックス小学校プロジェクト

レポート作成 総合政策学部3年 馬場安里紗

## 1.活動報告

◆活動日程： 2014年8月7日-17日、8月27-31日、9月5-7日

◆場所： コンゴ民主共和国アカデックス小学校、慶應義塾大学三田キャンパス、及び外部施設

## 2.活動目的

コンゴアカデックス小学校プロジェクトは、アフリカのコンゴ民主共和国首都キンシャサ市郊外のキンボンド地区で小学校を建設・運営するプロジェクトである。本年度の長谷部葉子研究会の渡航中の取り組みとしては、2つで構成されていた。

【給食の導入と提案】 経済的問題により食育の重要性が叫ばれるコンゴ民において、同小学校で子どもたちや現地の方々を巻き込みかまど作りを行う。また、給食のプレ制度としてかまどを利用し、パン作りを子どもたちと共に行う。

【被服授業の導入・提案・実践(高学年用カリキュラム)】 小学校で職業を見据えた技術教育が行われず、表現力と技術力の低下を生んでいる問題を背景として、コンゴ民で職業として成立する基本的な裁縫技術をアカデックス小学校の生徒が日本製のミシンを通じて学び、成果物をつくることまで行う。

また、アカデックス小学校の教諭を巻き込み、導入・実践を通じ、授業への本格的な定着をねらう。どちらも学校から仕事づくりに繋がる定期的な学習ワークショップ(WS)の開催・運営をし、今年度のみならず次年度以降も継続して定着をねらうものである。

だが、8月9日のWHOによる西アフリカ地区でのエボラ出血熱への緊急対応の取り替えにより、学部判断として、先発隊の渡航者の滞在の中断・帰国、後発隊の渡航者は渡航中止となった。8月5日から先発隊として渡航していたチームメンバーにより、急遽前倒しで、コンパクトに前述の内容を実施した。帰国後はその現状報告を元に、日本国内からコンゴの今後と日本との関係性・動向を探求し、理解を深める目的で、日本国内でコンゴ民主共和国でのコンゴ・日本両国の関係者のレクチャー型勉強会を行った。

## 3.活動の様子と成果

### ①渡航中に関して

現地のかまどの視察をし、設計図を建設チームが作成後、かまどの作製を約1週間で取り組んだ。建設前に、ブロック造りをWS形式でアカデックス小学校の生徒と教員と共に行った。かまどを小学校に設置することで、給食制度を設けることが十分可能である環境整備を行った。ブロックWSやパン作りを行うことで、子どもの関心を高め、今後アカデックス小学校で使用されていくための導入の一步を踏み出す事ができた。

また、生徒向けの裁縫の授業を4日間、教員研修を3日間行った。生徒向けの授業では、基礎の裁縫

技術を用いた成果物の作成を行った。教員に対するミシン研修では、1日目は基本的な糸掛け方法についての実践、2日目はミシン使用のレクチャーと実践、3日目は修理・修繕についての研修プログラムを実施した。秋からアカデックス小学校で裁縫の教諭となる人に対するミシン研修を終え、今後20台になるミシンを生徒に授業として導入する基盤をつくることができた。生徒に対しては、知識のみの習得ではなく、技術の研修を教育現場で行うことにより、技術家庭科といったコンゴ民の教育課程にはない職業教育といった新たな教育領域を提供する事ができ、今後も継続的に授業がなされることで小学校の価値創出、更には将来的な小学校への就学率及び卒業後の就業率の向上が期待できる。



## ②帰国後の活動について

帰国後も、コンゴプロジェクトへの知見を広げるために、様々なレクチャー型勉強会を開催した。コンゴ民主共和国2014年度短期フィールドワーク報告とその共有と課題を元に、「コンゴ民主共和国で生きる」「コンゴ民主共和国における日本人の立ち位置を知る」というテーマで、コンゴ民への長期渡航経験者である高木勇歩氏、大川晴氏、藤村武蔵氏と、ODA事業の一環で、道路建設工事で3年間コンゴ民へ渡航していた井上夫妻を招いてのレクチャーを開催。また、プロジェクトメンバー各人が文献からコンゴ民主共和国と日本の関係性について探るための勉強会とその研究成果発表会を実施した。

また日本に滞在するコンゴ民関係者である、ムウェテ・ムルアカ氏を招いての食文化学習と、在日コンゴ大使夫妻を招き、コンゴ民主共和国を外交・相互理解の視点から見るための異文化交流会を実施した。

帰国後の勉強会では、個々人としてかつチームとして、政治・言語・文化の側面におけるコンゴ民と日本の関わりを振り返ることで、感染症が広まる中でも切れることのない強い関係性を築いてきたことを再確認し、2014年度後半以降へ向けての検討と実現に向けて次のステップを考える機会となった。



写真左から順に、大川晴氏による現地語レクチャー／フフ(コンゴの主食)／大使夫妻との交流会

## 5.最後に

現地でのフィールドワークと日本での勉強会の二つを行うことにより、コンゴ民と日本において体系的な学びを得る事ができました。“長谷部葉子研究会コンゴアカデックス小学校プロジェクト“の活動を、研究助成基金の元、無事行うことができたことを、心より感謝申し上げます。